

## Code Orange

代表者 瀬戸口尚登 (医学 B4 年)

### 構成員

江見咲栄 (医学 B6 年) 小川裕子 (医学 B6 年)  
木村貴一 (医学 B6 年) 孝橋信哉 (医学 B6 年)  
古原千明 (医学 B6 年) 永島健太 (医学 B6 年)  
濱野弘樹 (医学 B6 年) 松尾欣哉 (医学 B6 年)  
綾田亮 (医学 B5 年) 岩橋晶子 (医学 B5 年)  
榎間未葵 (医学 B5 年) 木村翔一 (医学 B5 年)  
島袋太一 (医学 B5 年) 下川純希 (医学 B5 年)  
下西惇 (医学 B5 年) 仲田成美 (医学 B5 年)  
中溝一允 (医学 B5 年) 吉田陽 (医学 B5 年)  
吉村沙記 (医学 B5 年) 今井智子 (医学 B4 年)  
岡本彩 (医学 B4 年) 柏原彩乃 (医学 B4 年)  
近藤萌 (医学 B4 年) 新庄英梨子 (医学 B4 年)  
杉下征子 (医学 B4 年) 須田果穂 (医学 B4 年)  
田村友里 (医学 B4 年) 富永和花 (医学 B4 年)  
中島京 (医学 B4 年) 縄田慈子 (医学 B4 年)  
西田拡人 (医学 B4 年) 久本沙和 (医学 B4 年)  
森麻里母 (医学 B4 年) 明野由里奈 (医学 B3 年)  
小関元太 (医学 B3 年) 加藤優里 (医学 B3 年)  
河生多佳雄 (医学 B3 年) 佐村美穂 (医学 B3 年)  
田代恵莉 (医学 B3 年) 中嶋亮介 (医学 B3 年)  
永久成一 (医学 B3 年) 西田彩華 (医学 B3 年)  
浜辺龍太郎 (医学 B3 年) 宮本翔太 (医学 B3 年)  
矢田祥子 (医学 B3 年) 上野真帆 (医学 B2 年)  
大神彩夏 (医学 B2 年) 木村剛 (医学 B2 年)  
木本義敬 (医学 B2 年) 高浜麻衣 (医学 B2 年)  
坪根咲里依 (医学 B2 年) 戸川文子 (医学 B2 年)  
仲野優 (医学 B2 年) 水野ちづる (医学 B2 年) 宮崎由依 (医学 B2 年)

### 1. 上半期を振り返って

Code Orange は結成してから 5 年目を迎え、結成当時のメンバーが卒業するなど、変革期を迎えている。本年度も 4 月に新しい構成員の募集を行い、11 名の新メンバーを迎える事となった。2013 年 9 月現在、構成員は 56 名と、医学部学生の組織の中でも大所帯となり、医学部内での知名度も非常に高い。以前は広報活動を自分たちで行っていたが、学校の広報にも取り上げてもらえるようになった。

運営について、昨年度同様、プロジェクトリーダー (以下、PL) 制度を採用している。これは、各プロジェクトごとに、リーダーとなる学生を 2~3 名設定し、PL を中心としてプロジェクトを動かしていく仕組みである。これにより、多くの学生がプロジェクトの企画、運営について学ぶ事ができ、学生のレベルをあげることや、誰かに負担が集中する事なく組織の運営を行う事ができる。PL の設定は、学生の主体性を重んじており、プロジェクトに対して責任を持つ事や、成功の達成感を得る事で、より学生の自信へとつなり、貴重な経験となると考える。

上半期は、構成員の教育、一般市民への心肺蘇生法の普及の 2 本だてで活動に力を入れた。4 月に多数の新しい構成員を迎えた事から、新しい構成員への教育に必然的に力を入れる必要があった。昨年度に比べて普及活動の場を減らす結果となったが、短期間で新しい構成員がインプット、アウトプットの場をもうけられた事は、非常によかったと考える。下半期の活動へのステップを作る事ができた。

時の流れとともに、Code Orange 構成員の状況や、Code Orange を取り巻く状況、社会状況など、時々刻々と変化している。しかし、そのような状況の中でも、心肺蘇生法の重要性にぶれはない。山口県における心肺蘇生法の普及に少しでも貢献すべく、私たちは奮闘しているさなかである。

## 2. 上半期の活動内容

- 1) 4月中 新規メンバーの募集活動
- 2) 6/24 医学生対象講習会
- 3) 7/6 七夕祭展示&講習会@山口大学吉田キャンパス
- 4) 8/3 BLS ポスター展示&体験コーナー@山口大学工学部オープンキャンパス
- 5) 定期活動

## 3. 新規メンバーの募集活動

心肺蘇生法を普及する上で、知識・技能が十分に備わった構成員が多数必要となる。卒業するメンバーと同数か、それ以上のメンバーを確保する事は最優先事項であった。本年度は、募集活動の中で、メンバーのプレゼンテーション能力の向上も兼ねて、茶話会の中でパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行い、Code Orange の魅力を発信する事を試みた。5回の茶話会を実施し、8人がプレゼンテーションを行い、結果として11名の新しい構成員を迎える事ができた。構成員の数を増やす事は、心肺蘇生法の普及の第一歩となる。



写真1 茶話会におけるプレゼンテーション



写真2 新しい構成員を対象とした練習会

#### 4. 医学部学生対象講習会

医学部学務課からの依頼で、昨年より学生自治会と共同で、医学部学生を対象とした講習会を実施している。本年度も、6月24日に実施した。講習会の効果を発揮するために、受講者の立場を考え、工夫をこらした。工夫をこらすための手段としては、①今までの受講者アンケートを統計的に処理し、改善点を見つける、②Code Orangeの構成員が模擬の受講者となり、受講者の立場に実際になる事で、何が魅力的かを考える、③学外でのワークショップ（以下、WS）からの知識を取り入れる、事を行った。昨年度との相違点として、講習会の最後に MEGAシナリオと呼ばれる、実際に起きた事を想定して講習者だけで心停止者に対応してもらおう事を実施した。50人近い人に受講していただいた。受講者の感想は良好であり、心肺蘇生法の普及及び手技のレベルの保持に貢献できた。



写真3 部活動講習会にて、医学部学生に講習



写真4 部活動講習会において、デモンストレーション中

#### 5. 七夕祭展示&講習会

吉田キャンパス七夕祭において、一般人を対象として、BLS講習会を実施した。昨年度の行事の反省点から、たくさんの人に来てもらうために、他学年・多学部にわたってメーリングリストを用いて講習会を実施している事の周知活動を行った。当日は大雨警報のため、講習会の実施時間を減るなどのアクシデントはあったが、わずか3時間足らずの間で40人近い人に来ていただけた。事前に行ったメーリングリストを用いての周知活動の成果もでた。また、小学生が非常にたくさん来てくれ、今まで経験のない小学生への講習を実施する機会にも恵まれた。小学生の知識の吸収の早さには目を見張るものがあり、小学生を対象とした講習会を実施する事も、非常に有意義なのではないかと考えた。



写真5 七夕祭へ向けての練習



写真6 七夕祭にて、小学生に教える

## 6. BLS ポスター展示&体験コーナー@山口大学工学部オープンキャンパス

本学学生支援課からの依頼で、工学部オープンキャンパスにおいて Code Orange の活動の紹介を行った。夏休み中である事から、参加できる学生は非常に少人数であり、また工学部オープンキャンパスの来場者に対して紹介を行ったため、活動に興味を持ってもらう事に苦勞したが、30人以上の他学部の先生や学生に対して活動を知ってもらうよい機会となった。



写真7 工学部オープンキャンパスにて、高校生に活動紹介

## 7. 定期活動

定期活動は、昨年度後期より開始して活動である。本年度は、①パワーポイントを用いたプレゼンテーション（以下、プレゼン）を実施する事で、プレゼンターのプレゼン能力の向上、②他人のプレゼンを聞く事で、指摘する能力の向上、③経験豊富な上級生から下級生への、屋根瓦方式での指導体系の確立、を主目的として定例会を実施した。上半期においては、14回定例会を実施した。その中で、3年生と4年生がペアになり、BLSに関する知識の確認のためのプレゼンを複数回行い、新たに入った構成員に対する教育を実施した。同時に、3年生はプレゼンを行う事への慣れ、4年生は指導のあり方について学んだ。プレゼンをした事がない人にとっては、戸惑う事も多かったようである。相手に『伝わる』という事は、Code Orange 活動の中でも重要な課題であり、プレゼンの回数を積み重ねる中で、より相手に伝わるうまいプレゼンができるようになればと考えている。

毎年10人程度の構成員の入れ替えがある組織の中で、構成員の主体性を最大限尊重しつつ、組織のレベルを継続して向上させていくためには、知識や知恵を循環させつつ新たな知識を増やしていくシステムの構築が重要であるとする。今後定例会を継続していく事で、組織の中でよい循環を生み出せたらよいと思う。



写真8 Advance な内容に関する定例会



写真9 定例会で熱弁する構成員

## 8. 広報活動

昨年度の Code Orange の活動に対して、おもプロ学長賞の榮譽を受け、山口大学ホームページに掲載していただく事ができた。また、医学部総務課からの取材を受け、病院だよりに Code Orange を記事にいただいた。従来から存在するホームページ (<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~orange/index.html>) も、リニューアルして運営している。さらに、ソーシャルネットワークサービス Face book においても、独自のページを作成しており、1000人以上の人に見てもらっている。

今後、医学部周辺の高校や自治会に広報活動を実施する事で、より Code Orange、さらには心肺蘇生法について知っていただく機会を増やす予定である。

## 9. 下半期に向けて

前述した通り、Code Orange は変革期を迎えている。その理由として、①構成員の人数が増えた事により、構成員の中での参加頻度の差が生じ、レベルにも差が生じている、②構成員の人数が増えた事から、プロジェクトの立案・実行に移す過程で、時間を要するようになった、③認知度が高まった事により、外部からの依頼が増えた事で、以前より自由に行動する事が難しくなった、事が挙げられる。昨年、大所帯となった組織をより強力にすべく、様々な試みを行ってきた。上半期においては、組織の中で新しいプロジェクトを立ち上げる際に、PLを設定し、PLを中心にプロジェクトを動かす仕組みを試みた、ある程度軌道にのせる事ができたと考える。また、レベルのばらつきがあるなかで、知識・技能やプレゼン能力向上のための良い循環を生み出すために、定例会の設定や練習会を設定した。学生が主体となって社会に貢献するという非常に有意義な活動をこれからも末永く行っていくために、組織をシステム化する過程は避けて通れるものではない。講習会の回数こそ減ったものの、上半期は非常に有意義であった。上半期の過程は、必ず今後につながる。

下半期は、創立以来初となるWSをCode Orangeで実施する。これは、山口県内の大学生を対象として、BLS及びfirst-aidについて実践を交えた講義を行うものである。WSの準備のため、4月から上級生を中心として準備を行っており、10月の開催に向けて準備を加速させている。また、11月には医学祭で心肺蘇生法講座、小野田工業高校で定時制学生を対象に講習会（医学部地域医療推進学講座主催）を実施する。人数を増し、パワーアップを図りつつ、工夫を重ね、BLSの県内への普及をより加速させていきたい。

参考までに、下半期の計画を挙げる。

- 1) 10月13日 BLS&first-aid WS@山口大学学生会館
- 2) 11月9,10日 医学祭一般市民向け心肺蘇生法講座@山口大学小串キャンパス
- 3) 11月28日 小野田工業高校救急処置講座@小野田工業高校
- 4) 2~3月 宇部駅伝徒競走大会自転車救急隊&心肺蘇生法講座@常盤公園
- 5) 一般市民向けBLS講座
- 6) 随時 他大学でのWS参加
- 7) 週一回 定例会



写真 10 顧問の小田康崇先生を囲んで